

横須賀芸術劇場少年少女合唱団

「訪問コンサート」 in 横須賀市民病院

横須賀芸術劇場少年少女合唱団が行っている活動の一つに、市内の色々な施設へ出向いて歌をお届けする訪問コンサートがあります。

普段、劇場までお越しいただく事ができない地域の皆様と音楽を通して交流を図る目的で 7 年前にスタートした横須賀芸術劇場少年少女合唱団の訪問コンサート。

第 8 回目となる今回のコンサートは、横須賀市立市民病院で梅雨が明けたばかりの 7 月 18 日に行いました。当日は入院患者の方やそのご家族など約 60 名を前に、小学 6 年生～高校 3 年生の 27 名が演奏しました。コンサートを行う 7 階西棟のホールからは佐島の海を見渡せ、抜群の眺望でした。



はじめに合唱団を紹介し、いよいよコンサートのスタートです。団員が各々、演奏曲について簡単な説明とコメントを付してコンサートは進行していきます。「浜辺の歌」、「早春賦」、「アヴェマリア」、「歌のつばさに」など馴染みのある全 9 曲の演奏です。

このコンサートの特徴は劇場のコンサートと違って、聴いてくださる方との距離が近く、そしてその表情や息遣い、反応が手に取るように分かることです。



また歌を届けるばかりでなく「交流タイム」の中で患者様たちとの会話も楽しみの一つです。

「歌はお好きですか」「さきほどの演奏はどうでしたか」などそれぞれの団員が思い思いの言葉を患者の方々に投げかけ、会話する表情やしぐさから楽しい様子が窺い知れます。

交流タイムの後は、「ふるさと」の演奏です。患者様とも一緒に歌いました。

そして昨年、劇場開館 20 周年を記念して合唱団が委嘱した作品「海から吹く風、海へと吹く風」と平和を祈る「地球をつつむ歌声」の 2 曲をお届けしました。「地球をつつむ歌声」は、聖路加国際病院の名誉院長日野原重明氏が平和の尊さを小学生に向けて詞を書き下ろした作品。今年の N H K の全国学校音楽コンクールの課題曲で全国の小学生に歌われました。6 月のよこすか芸術劇場少年少女サマーコンサートでもプログラムに加え歌って御紹介したばかり。歌を通して戦争と平和について感じる事ができたひと時でした。

最後は、合唱団の演奏会での定番曲「元気に笑え」を演奏、皆さんに大きな手拍子が会場に響きわたりました。

<演奏曲>

浜辺の歌／早春賦

アヴェマリア／歌のつばさに

ハンガリアンダンス／ふるさと

海から吹く風、海へと吹く風／地球を包む歌声

元気に笑え

<病院側職員の感想>

- ・院内コンサートの開催をありがとうございました。

患者さん方とふれあう時間をも頂戴し、場内が感動と感激につつまれ

忘れられないひとときとなりました。

また機会がございましたら、是非お願い致したく何卒お願い申し上げます。

- ・団員の皆さん、先日は心に染みる素敵な歌声をありがとうございました。

患者さんやご家族の方々もとても穏やかな表情で、聞き入っていました。また、皆さんと一緒に

ふるさとの曲を歌ったり、団員の皆さんがステージから降りて「こんにちは」と屈託のない元気な笑顔で

初対面の患者さん一人ひとりに声を掛けてくださり、と楽しい時間を過ごす事が出来ました。

患者さんも嬉しそうに質問に答えて会話が弾んでいました。

素直な皆さんの歌声や気持ちに感動を覚えました。

最後に、至福の一時をくださり、本当に有難うございました。